

インターバンクの声（2015年2月16日）

金曜日 13 日の海外市場がまともに動いたのは、ニューヨーク市場の午前 10 時（日本時間は土曜の午前 0 時）まで。月曜日 16 日がプレジデント・デー（ジョージ・ワシントン誕生日の祝日）のため休日となることから、毎度のことだがニューヨーク勢が午後誰がいち早くオフィスを出られるのかの算段をし始めることも相場が動かなくなってしまう理由の一つになっている。もっとも、この日はアジア市場の後半から相場の先行きを占うのに少しややこしくなる材料が並び、普段通りの日であっても相場展開を読むのは難しい一日だったに違いない。アジア時間の終盤に発表されたドイツの GDP、そして少し遅れて発表されたユーロ圏の GDP がともに予想を上回ったこともあり、北海ブレント原油が今年初めてバレル 60 ドルを超えてきたことや、商品価格全般が上昇気配となったことから始まり、ウクライナとロシアとの間の停戦合意が成立、ギリシャの債務問題も解決に向かうとの見方が強まったこともユーロには追い風となっていた。しかし、ドルにとっては雇用統計の発表があつて以降のドル高見通しを不安にさせる経済指標の発表があつた。2 月のミシガン大学消費者信頼感指数（速報値）が 1 月の確報値から極端に大きく下がってしまったのだ。この指標一つだけの結果でドルの暴落になるわけではないが、18 日に発表される FOMC 議事録の内容がいつも以上に気になってきた。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。